

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育の思想と歴史 History of the development of early childhood education		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程選択必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理、保育原理、保育内容総論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程概説				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
日本の幼児教育、保育の改革に影響を与えた保育思想について、メソッドを示した文献、教具等を実際に見たり触れたりすることで学ぶ。特に、モンテッソーリ教育、ピラミッドメソッドについての保育の取り組みとその特徴について知る。				
授業の目標				
①マリア・モンテッソーリという人物を知り、医学者が教育者として保育を代表する教育法を見出した背景を説明することができるようにする。 ②モンテッソーリ教具の意味と、教師の提示について知り、日々の保育に取り入れる活用法を考えることができるようにする。 ③ピラミッドメソッドの考え方を知り、養護と教育の関係を具体化する環境構成を考案することができるようにする。				
授業の方法				
保育の思想とメソッドについては文献を学生自らが手に取り内容を知る活動とする。メソッドの意味や普及した背景などは講義とする。モンテッソーリ教具は実際に触れ、試し、効果の意味を考える。学びを深めるための映像資料を見て意見交換をする。				
学習の成果（学習成果）				
①マリア・モンテッソーリという人物についてメソッドと共に説明することができる。 ②モンテッソーリ教具による保育と、子どもの育ちの上で効果的な取り入れ方法を考えることができる。 ③ピラミッドメソッドの考え方を取り入れた保育環境を図式化して示すことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の概要と授業の進め方についての説明）			
第2回目	保育の思想という視点から—I—フリードリッヒ・W・A・フレーベル（映像資料の視聴あり）			
第3回目	保育の思想という視点から—II—ヴァルドルフ・シュタイナー（映像資料の視聴あり）			
第4回目	保育の思想という視点から—III—レッジョ・エミリア幼稚園			
第5回目	保育の思想という視点から—IV—マリア・モンテッソーリ（映像資料の視聴あり）			
第6回目	保育の思想という視点から—V—ピラミッドメソッド			

第7回目	モンテッソーリ教育の始まり…人物像を探る	
第8回目	モンテッソーリ教育の考え方…保育者の関り方	
第9回目	モンテッソーリ教具を知る…感覚教育（教具に触れる）	
第10回目	モンテッソーリ教具を知る…言語教育・日常生活の練習（教具に触れる） *レポート課題①（提出日は授業内で指示）	
第11回目	ピラミッドメソッドの始まり…オランダの幼児教育を考える	
第12回目	ピラミッドメソッドの考え方…養護と教育とは	
第13回目	ピラミッドメソッドの環境…保育者の関り方	
第14回目	ピラミッドメソッドの環境…環境をデザインするとは *レポート課題②（提出日は授業内で指示）	
第15回目	保育の思想と歴史を踏まえた保育の在り方と構想の意見交換	
事前・事後学習	保育の先駆者たちの偉業を調べて臨むことを期待する。様々な保育の思想を自分の保育観と絡めて考えを深めてほしい。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業で使われる教材を準備して授業に臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートもきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。（詳細はガイダンス時に説明）
レポート	30%	第10回目レポート①では、モンテッソーリ教具を調べることの課題とし、第14回目のレポート②では保育環境のデザインを考案することの課題とし、内容と評価基準の詳細は授業内で説明する。（各15%ずつ配点）
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	論述式である。設問に対する要求を満たし、内容もきちんとしており、更に授業内容の範囲を超えて自分の考え方が示されている。（詳細はガイダンス時と第15回目で説明）
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
使用テキスト：特になし 適宜プリントを配布する。 参考図書：授業中に指示する。		
履修上の留意点・ルール		
活発な意見交換をすることで、保育の魅力を捉えることに期待したい。		